

## 建物保存・再生におけるクラウドファンディングを利用した資金集めに関する研究

日大生産工(院) ○櫻田祐理 日大生産工 亀井靖子

## 1. はじめに

近年、残すことを望まれながらも価値のある建築物の取り壊しが行われている。歴史ある建築物を残す上で課題は多くあるが、その1つに資金問題が挙げられる。それを要因として運営を中止せざるを得なくなる場合や周辺住民などによる反対意見があったとしても解体となってしまう場合がある。そのため歴史ある建築物を後世に安全に残すためには資金集めが必要不可欠である。そして資金集めの方法としてネット環境があれば誰でもプロジェクトを作成することができ、また誰でも支援者となることのできるクラウドファンディングがある。

クラウドファンディングの既往研究には中村<sup>1)</sup>のように支援者を分類分けした上でクラウドファンディングの動機やクラウドファンディングへの考え等、支援者の実態を調査したものがあつた。またクラウドファンディングと建築の既往研究には玉井<sup>2)</sup>の空き家再生のプロジェクトを調査し支援者との繋がりや物件の契約、改修工事などの実態を研究したものや、平井<sup>3)</sup>の空間整備に関するプロジェクトの分野分けや実施場所からクラウドファンディングとまちづくりの関係を研究したものがあつた。しかし建築保存に関する調査は行われていない。

本研究ではリターンのある購入型クラウドファンディングのプロジェクトを対象に調査を行い、建物の保存・再生を目的としたクラウドファンディングを行う上での効果的なアプローチやクラウドファンディングを資金集めの役割以外で建築の維持へつなげる方法を明らかにすることを研究目的とする。購入型を選択した理由はリターンがあることで資金支援のみで終わらず、建築とのつながりができると考えたためである。

## 2. 調査概要

## 2-1. 調査対象

クラウドファンディングのサイトは複数あつたが、今回の調査では日本初のクラウドファンディングサイトであり、手数料の低さやスタッフのサポートが受けられることから、初心者でも利用しやすいと考えられるREADY FORを採用した。

調査対象とするプロジェクトはREADY FORのプロジェクト検索欄にて「建築 保存」と入力して表示された終了済みのプロジェクト全189件のうち、内容が建築の保存を目的としていた79件(9月13日閲覧)とした。

## 2-2. 調査方法

建築の保存を目的としたプロジェクトの基本的な情報をサイト内のプロジェクトページより収集し分析を行う。収集した項目はプロジェクト名・対象とした建築・プロジェクト終了日・プロジェクトの目的・目標金額・支援総額・支援人数・プロジェクト状況・達成率・リターン内容である。

## 3. 調査結果

## 3-1. 調査対象の概要

図1はプロジェクト終了日とプロジェクト数の関係を表し、図2は支援総額と支援人数の関係を示す。ただし図2は法隆寺のプロジェクトデータを除く\*1。

図1より近年プロジェクト数が増加傾向にあることがわかる。2020年以降はコロナウイルスの感染拡大の影響による来観者の減少を受けた建築もあり特に増加している。図2より支援総額と支援人数には比例の関係がある。

支援総額に関しては、最高金額は15700万円、次点が2867万円、最小金額は6万円、支援総額が1000万円以上は23件である。支援人数に関しては、最高人数は7456人、次点が1400人、最小は9人、支援人数50人以上は13件である。

プロジェクトの対象とされた建築には国宝が1件、重要文化財が6件、登録有形文化財が15件含まれていた。登録有形文化財のみならず国宝・重要文化財でも資金不足が発生している現状がわかる。国に登録されている建築以外

---

Research on fundraising using crowdfunding  
for building preservation and regeneration.

Yuri SAKURADA and Yasuko KAMEI

では古民家や特徴的な建築様式を持つ建築、市民に親しまれている建築などがプロジェクトの対象となっていた。

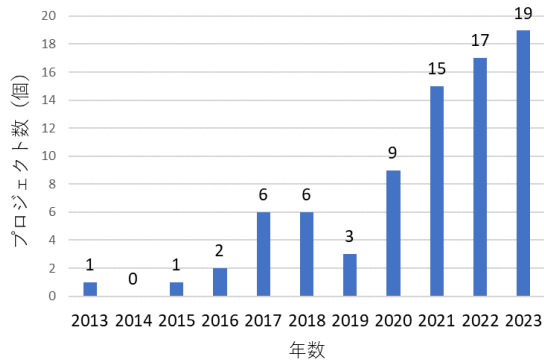


図1 プロジェクト終了年とプロジェクト数の関係 (N=79)

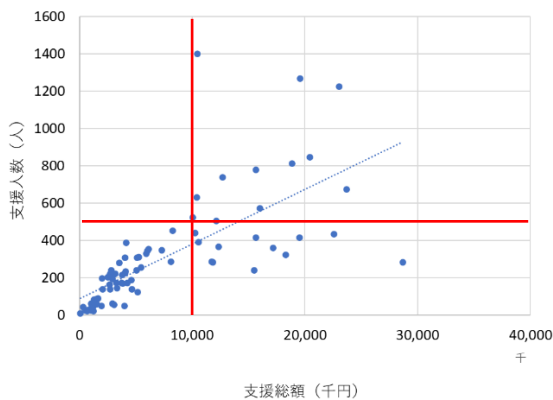


図2 支援総額と支援人数の関係 (N=78)

#### 4. 特徴的なプロジェクトに関して

##### 4-1. 工事方法を普及するプロジェクト

「尾道の山手で、大切な風景を『残す』仕組みをつくりたい。」プロジェクト(支援金額1950万円、支援者数415人)は尾道にある古民家を再生するだけでなく、修繕工事のノウハウをオープン化し共有することで同じ取り組みを行う人々の助けになることを目的としている。リターン内容は全額共通でオープニングレセプション参加・工事手法の公開・Tシャツとなり、支援されているリターンの金額は1万円から100万円である。リターン内容が共通ながらも高額なリターンを選ぶ人がいることや2000万円近くもの支援を集めたことからこのプロジェクトを強く応援する人や建築の再生の方法に興味がある人がいたことがわかる。

##### 4-2. 建築の魅せ方を工夫したプロジェクト

『鯛よし百番』修復へ。飛田百番の魅力、歴史を未来につなぐために。」プロジェクト

(支援総額1884万円、支援人数812人)では、クラウドファンディングの実施に先立ちVR撮影を行い、外観・内観をPCで閲覧可能としているプロジェクトである。このプロジェクトでは資金面だけでなく文化遺産を守る仲間を募ることも実施理由としており、VRの活用によって建物を実際に訪れたことのない人にも写真を見る以上に建築の魅力を感じることができる機会をつくっている。VR撮影は簡単に行えるものではなく今回の調査での採用件数は1件であったが、人々の共感をより得られる取り組みであるため今後行われるプロジェクトに採用すると効果的であると考えられる。

##### 4-3. 登録文化財を目指すプロジェクト

「近代化遺産を未来へ、旧摩耶観光ホテルをみんなの力で守りたい！」プロジェクト(支援金額727万円、支援者数349人)は旧摩耶観光ホテルを後世に守り継ぐために登録文化財の申請を目指すことを目的としており、集めた資金は調査や資料作成に使用される。リターン内容にはオリジナルグッズの受け取りもあるが現地での調査参加などの体験も含ませることで共感しやすく、今後の活動にも興味を持ってもらいやすい工夫がされている。このプロジェクトは2017年に実施され、ホテルは2021年に登録文化財となった。

#### 5. 今後の展望

今回の調査結果より建築保存に関するクラウドファンディングのプロジェクトの現状を把握することができた。今後はそれぞれのプロジェクトのリターンに着目し、分類分析を行うことで支援者に好まれるリターンのタイプや今後実施されるプロジェクトで採用が効果的であるリターンについて明らかにする。

##### 参考文献

- 1) 中村雅子,クラウドファンディングの利用実態に基づく支援者の類型化,経営情報学会誌,29巻,3号,2020,pp.179-198
- 2) 玉井香里,クラウドファンディングより資金を調達した空き家の利活用の実態に関する調査,2018,pp1063-1064
- 3) 平井千恵,まちづくり関連施策におけるクラウドファンディングの活用動向,学術講演梗概集,2018,pp1063-1064

##### 注

- 1) 法隆寺のプロジェクトは支援総額15700万、支援人数7456人と突出したデータであるため。